

碧空

帯広市立第四中学校 学校だより No. 5

平成28年 6月24日発行 発行者 校長 辻 敦郎
教育テーマ 『静かな時間の創造』 今年度重点 『連帯する学びの構築』

《学校教育目標》

- みかき
- かかわり
- ひろく

帯広市中体連目前！壮行会実施

6月21日（火）、壮行会を実施しました。今年度は吹奏楽部による入場行進曲演奏と大会当日野球部への応援で使う曲を各部にコールする形で演奏し、大いに壮行会を盛り上げました。さらに本校の生徒会による「応援団」は伝統的な四中の応援様式を披露し、今年の活躍を祈願しました。壮行会に臨むすべての選手・生徒が、「姿勢を崩さず」に参加していたその姿勢に、「決意」が感じられました。



合同陸上大会

24日（金）中学校体育大会の最初の夏の大会が帯広の森陸上競技場で行われました。



克己心

職員室の夜3年3組担任日笠教諭が空中を見つめ目を細めているので、優しく思いやりにあふれる私（辻敦郎）が、「どうした？悩んでる？」と、たずねると、学級通信“克己”の編集を脳内で行っているという事であった。
「克己って、カッコいいね。」と言ってから、自分も克己心について考えをめぐらせた。

「人生とは楽しいものである。」

そのことを、生徒諸君の人生の先輩として、先生方は毎日君たちに教えている。

言いかえると、勉強とか学問と呼ばれているものは、「人生はいかに楽しいか。」という証拠（しょうこ）をまとめたものである。

ここで言う「楽しさ」とは最初から存在するものではない。

「楽しさは」は人間の行動や経験から生まれる「心の動き」なのである。

君の心の動きの「ギュッ」とつかめるような瞬間を

「実感」という。

しかし、この「実感」が自分勝手な快楽を求めるだけの破壊的なものであれば、ここで論じようとしている「楽しさ」とは別な種類のものになる。

「自分に負けるな。」「自分に勝て！」と先生方は様々な場面で教えてくれるだろう。

やがて、諸君は様々な学校生活の中で、

努力することの素晴らしさを「実感」する事になる。

「自分に負けない。」という、人が生まれたときから握りしめている「心の形」を我々は「克己心」（こっきしん）という。

この「心の形」は13歳～15歳ぐらいで完成する。

体育祭や中学校体育大会で「勝ち負けにこだわる事」を進める理由でもある。

帯広市中体連各競技開催会場一覧(6月25・26日)

野球：25日(伏古別)26日(伏古別・南町C)

バスケットボール：帯広の森体育館 サッカー：十勝川サッカー場

卓球：総合体育館 バドミントン：帯広第五・緑園中

ソフトテニス：帯広の森テニスコート